

はじめに

今日、学校を取り巻く社会情勢は、グローバル化や情報化、少子高齢化など急激な変化に伴い、高度化・複雑化・多様化する諸課題への迅速かつ適切な対応が要求されるようになってきています。又、これらの中には、変化が激しく先行きが不透明なものも多く存在します。

このような社会をたくましく生きるためには、学校教育において、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を築いていく力の育成等が大切となります。このことは、「教員は、教職生活全体を通じて、実践的指導力等を高めるとともに、社会の急速な進展の中で知識・技能が陳腐化しないよう絶えざる刷新が必要であり、『学び続ける教員像』を確立する。」(中央教育審議会答申 H24.8) ことが求められている所以です。また、団塊世代教員の大量退職に伴い、新規採用教員が年々増えてきており、今まで学校現場で培ってきた数々の実践的指導法を次世代にいかに伝承させ向上を図るか、という課題も生じています。

このような背景のもと、学び続ける教員を支援するために、教育センター学びの丘では、「研究」「研修」「支援」を3本柱として各種の事業を展開しています。

本研究冊子は、学びの丘の事業がより充実したものになるように所員が研究した内容を掲載しています。

国語科においては、高度な専門的知識や実践的指導力向上のため「小学校国語の授業改善に向けた年間を通した学校への支援に関する研究」と『指導事項』と『言語活動の充実』を意識した高等学校国語科の授業構想の2本を掲載しております。

10年経験者研修における取組として、校内人材育成システムを有効に活用できるよう、「ミドルリーダー育成に向けた10年経験者研修の実施プログラムの在り方についての一考察」を掲載しています。

教育相談の分野からは、事件や事故等で日常の学校運営に支障を及ぼす支援として、「学校運営に係る緊急対応についての考察」と、教職員のメンタルヘルスの上で重視しなければならない、「教師の精神的健康と学校の組織特性との関連について」を掲載しております。

以上、これらはいずれも教育現場における喫緊の課題に対応するための研究内容であると考えています。本研究冊子の内容が学校教育活動の活性化に役立つことはもちろん、本県教育のさらなる充実に資することを願うとともに、ご高覧の上、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

平成26年3月

和歌山県教育センター学びの丘

所長 楠 義 隆